

ocean+α

©ocean+ α ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



桜島の
お膝元を
潜る！

錦江湾の

魅力

ワイドで魅せる

桜島の麓に広がる錦江湾は

大噴火でできたカルデラ湾。

その閉ざされた海中は

栄養のぎっしりつまったスープでもあるという。

透視度の悪さゆえマクロの印象が強かったが

特異な景観はワイドでこそ独特の魅力を放つ。

これまでにない

新鮮で斬新なワイド写真で錦江湾を綴ろう。

Photo=Takaji Ochi

Edit=Harumi Yamamoto

Special Thanks=Scuba Diving Shop SB

Design=PanariDesign



ムチカラマンの森と表現してもいいくらいに群生している



シコロサンゴの周囲を取り囲むように群生するサンゴイソギンチャク

雄大な桜島を抱く。錦江湾へ。

桜島を取り囲む鹿児島湾は、錦江湾とも呼ばれる。火山の大噴火によってできたカルデラ湾で、その中央に鹿児島県を象徴する桜島を頂く、雄大な風景が広がっている。まだ活火山である火山島の麓には約5000人の人々が生活し、錦江湾を挟んだ対岸には、人口60万人都市の鹿児島市がある。

これだけ活発に活動が続ける火山の麓に平然と人々が住む光景は、世界的にも珍しいといえるだろう。稀有というか……

命知らず？ と言ってもいいくらい環境だ。取材時にも1日1回は噴火をしていて、時折「どど〜ん！」という爆発音が聞こえてくるのだが、それもここに住む人々にとっては、日常茶飯事の聞き慣れた音でしかないのだろうか。

「風向きによっては、噴火で飛ばされてきた火山灰が市内に積もって掃除が大変なんです」と笑いながら話すのは、地元ダイビングショップSB^{エスビー}のオーナーガイド、松田康司さん。迷惑、と言いつつも、どこことなく



01, 溶岩の海岸からエントリーするダイビング 02, 暗い海中でライトを当てると、婚姻色のアカオビハナダイ（オス）の体色が際立つ

うれしそうだ。

それだけ桜島は、鹿児島に住む人々にとって、自慢できる大きな存在なんだと感じる。確かに、鹿児島に来た際に桜島の山頂が雲に覆われて姿が見えないと、なんだかとても損をしてしまったような気持ちになるから不思議だ。

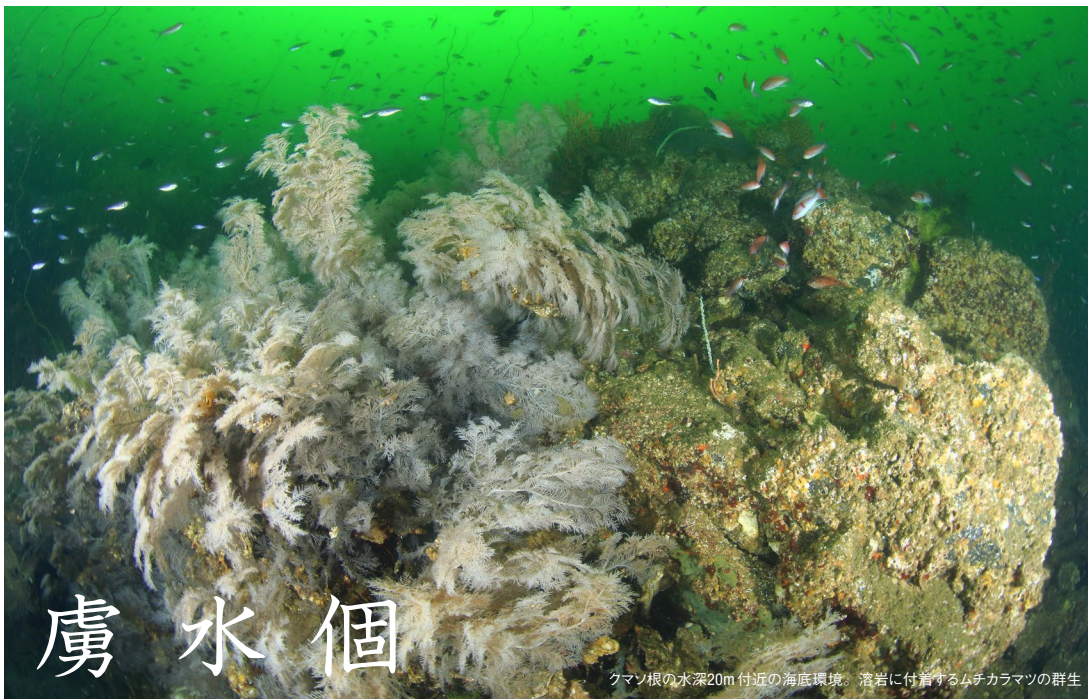
それでは、その桜島を取り巻く錦江湾はどうなんだろう？

今回の取材の目的は、もちろん桜島ではなくて、その周囲を取り巻く錦江湾で潜ることだ。「錦江湾の海水がすべて入れ替

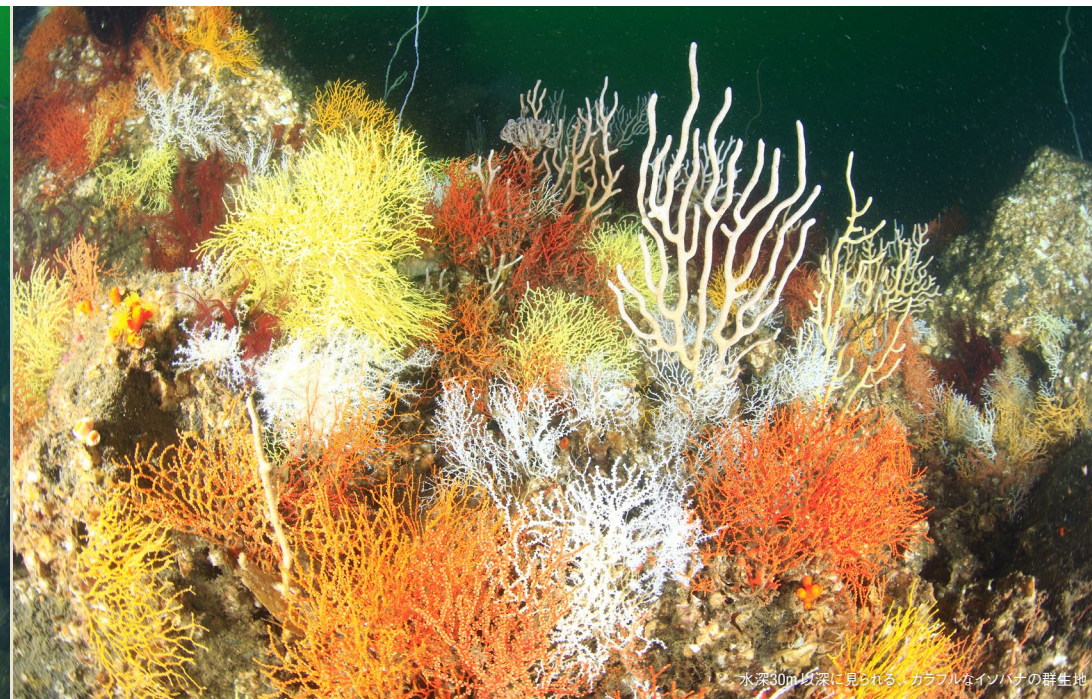
わるのには、30年かかると言われています」という松田さんの説明が、やたら脳裏に焼き付いて離れない。この海は、生物たちにとって、栄養がぎっしりつまったスープでもあるのだという。反面、閉ざされた閉鎖的内湾であるため、一度ダメージを与えると回復に気の遠くなるような時間を要する繊細な環境だ。

いったい、どんな不可思議な世界が広がっているのだろうか。そして、溶岩によって形作られた海底環境は……？ 特異な環境の海に興味は尽きない。

桜島のお膝元を潜る！
ワイドで魅せる 錦江湾の魅力
2019 Winter [Kinkowan]



クマン根の水深20m付近の海底環境。落岩に付着するムチカラマツの群生



水深30m以深に見られる、カラフルなイソバナの群生地

個性的な水中風景に。

最初に潜りに来る前の印象は、暗く、透視度が悪く、マクロが中心のダイビングスタイルと当然思っていた。

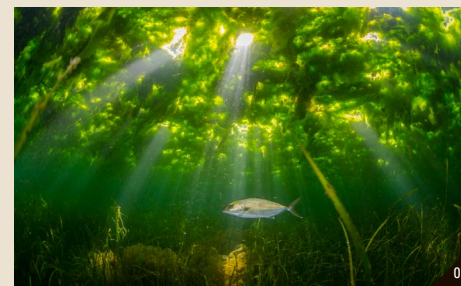
今から10数年前のことになるが、この錦江湾をダイバーたちに“全国区”と知らしめた立役者が、当時ガイド会に所属していた出羽慎一さんだ。潜りに行ったことはなかったが、本人のお名前と錦江湾という聞きなれない湾の名前、そして、稀有なマクロ生物たちの写真は、以来忘れることなく、僕の記憶の片隅に残っている。それと同時に、大物海洋生物をテーマに撮影をしている自分には、きっと一生縁のない海だと思っていた。

それが今、この海のことをおもしろいと感じている。しかも、マクロじゃなくて、ワイドがメチャクチャ個性的ときた。

初めてSBに取材で訪れたとき、正直、錦江湾の右も左も分からない状態だった。

ショップの中に招き入れられて、店内を見回すと、オーナーの松田さんが撮影した錦江湾の写真や、南薩摩の海の写真が目についた。その中でも僕の琴線を刺激したのは、緑色の雲海に埋め尽くされたかのような海中に太陽の光が差し込む写真だった。何なんだ、この見慣れない新鮮で神々しい光景は！と心の中で思わずそう叫んでいた。即座に「これは何ですか？」と松田さんに尋ねると、「これは、シオミドロが繁殖している錦江湾の海中景観です。2月くらいに見られるんですよ」。

さらに、「その隣のクラゲと夜の夜景の



01



02

01,繁殖するシオミドロに木漏れ日が差し込む（撮影＝松田康司） 02,増殖したタコクラゲと鹿児島市の街を絡めた夜の半水面（撮影＝松田康司）

半水面写真は？」と問うと、「これはタコクラゲで、8月くらいに増殖するので、こんな写真が撮れます」。そして、「このアカオビハナダイのすごい群れは？」「これは、1年中撮れますけど、ベストは10月くらいですかね～」と松田さん。

普段見慣れないワイド写真に触発され

て、ふつふつと錦江湾への興味が湧き、ワクワクしてきた。確かに透明度は悪いのかもしれないけれど、ワイドが楽しめる海じゃない。いや、もっともっと、新鮮で斬新なワイド撮影ができそうな海なんじゃないか。

そう思って提案したのが“ワイドで魅せる錦江湾の魅力”だ。

桜島のお膝元を潜る！
ワイドで魅せる 錦江湾の魅力
2019 Winter [Kinkowan]

独特の
美しさで
美しく
輝く
赤と緑の
共演。

単発のロケでは、錦江湾の四季折々の海中景観を撮影することはできなかったのだけれど、潜っていて驚いたのが「クマソ根」だ。最初は、伊豆の春濁りみたいな透明度に、ワイド撮影大丈夫かなと思いがながらエントリー。ガイドの松田さんの黄色いフィンを目印に潜降していく。

まずたどり着いたのが、船を固定するアンカーがかかっている、水深15mほどのスロープ部分。そこには、紫色をしたアカヤギの群生地がある。そこから深度をゆっくりと

落としていくと、水深20m付近には、白やオレンジ、淡いピンクなどのウミトサカが群生していて、また違った景観を見せてくれる。

錦江湾の海中の顔であるアカオビハナダイは、水深5mより浅いエリアから、至るところで見ることができる。ただ、水深25m付近にある「クマソ根」のメインエリアには、あふれんばかりのアカオビハナダイたちが乱舞していて、潮の流れによっては、根を覆い尽くす。透明度の悪い緑の海中では、あまりはっきりしないのだけれど、ストロボを

発光した写真は本当に美しい。真っ赤なアカオビハナダイの乱舞のバックに、この不思議な緑色も悪くない。

そして、さらに深度を落とした35m付近には、カラフルな色彩をしたイソバナが群生している。小さめで、色とりどりで、周囲も暗めだから、とても映える写真が撮影できる。

撮影に夢中になって、深く潜りすぎたため、ゆっくり浮上。浅瀬で安全停止をしながら周囲を伺うと、水深5～10m付近には、これまたカラフルなソフトコーラル畑。その

上、水深3mから水面付近には、キビナゴの大群が、太陽の光を体に浴びてキラキラと光を反射させながら、すごい勢いで泳ぎ去って行く。

四季だけでなく、この「クマソ根」では、水深のちょっとした違いによって、とてもバリエーションに富んだ表情を見せてくれる。他のポイントにも潜りたいのだけれど、正直、ベストコンディションの「クマソ根」を見せられると、ワイド撮影が楽しくて何本も潜りたくなってしまった。

透明度の高い海でも、これほど、1ダイブでバリエーションに富んだワイド撮影ができるポイントは、なかなか記憶に上がってこない。もちろん、今までと違う景観がおもしろいから、というのも確かにあると思う。でも正直なところ、ワイドなら「このポイントに何日間か潜り続けてもいいかな」とさえ思えるポイントだった。

特に、アカオビハナダイの乱舞シーンは、2018年に撮影した、僕のお気に入りの写真の一点になった。



水深5mには、ソフトコーラルの群生地が広がる

「クマソ根」の顔。

深度で変わる



01、水面下をキビナゴの群れが通過していく 02、水深15mは紫色をしたアカヤギの群生地



サクランボウ=ネジリンボウ。錦江湾の海中のアイドル



01



02

「さくらんぼう」と 出会う。

愛らしい

前述の通り錦江湾は、先人の開拓によって、多くの珍しいマクロ生物が確認されている。今回はワイドメインだったために、あまりマクロ撮影は行わなかったのですが、紹介できる生物が少ないが、アカオビハナダイ同様に、この海のアイドル的なハゼを紹介しよう。

日本では、どこでも見られるネジリンボウ。だけれど、この個体数が半端ない。桜島周辺には、いざ噴火したときに船を寄せる、避難港がある。その中の第五避難港の周辺には、水深5m程度からネジリンボウのコロニーがあり、右にも左にも、前にも後ろ

にもネジリンボウという状況になることも。しかし、このネジリンボウ、通常の個体と比較すると、かなり体色が違う。黒みがかっていて、顔の部分や胴体はピンクを帯びている。そんなことから、「さくらんぼう」と呼称がついていて、観察も撮影もしやすいことから、錦江湾を潜る多くのダイバーから愛されている。

今回は、ワイドの紹介が中心なので、他のマクロ生物については、また機会があればご紹介したい。ワイドだけでも絶対楽しめる錦江湾、ぜひ、チャレンジしてみたい。

DIVING SERVICE



03



04

Scuba Diving Shop SB

〒891-0144 鹿児島市下福元町7641 ☎10:00～19:00 (※毎週火曜日(夏季7～9月無休))
Tel.& Fax.099-262-5838 ✉bucubucclub@yahoo.co.jp
<http://sb-diving.sakura.ne.jp>

今では、あまり潜れない錦江湾をメインにガイドする、数少ないダイビングサービス。しかも、錦江湾と外洋の南薩摩、鹿児島県の両方のダイビングスポットに、自社ボートを所有している唯一のサービスだ。

オーナーの松田康司さんは、ガイド会に所属。錦江湾でのダイビングに強いこだわりを持ち、日々、錦江湾の魅力を発信し続けている。奥さんの環さんの物怖じしない、天真爛漫(!?)なキャラもゲストには

大ウケ。その勢いに、こちらがたじろぐこともしばしば。スタッフの射手園さんは、超天然。マイワールドが強すぎて、時に人と会話しているのか、黄泉の世界から来た人と会話しているのか、わからなくなることもしばしば。

2隻の自社ボートを操船するのは、松田さんのお父さんの松田俊一さん。法律方面の意外な経歴に、ちょっと驚かされると同時に、姿勢が正される。

01,サクランボウの個体数の多さを表現してみた 02,鹿児島市街地をバックに噴煙を上げる桜島。こうしてみると本当に近い 03,桜島をバックにSBのスタッフ集合写真 04,南薩摩での自社ボート、パール号

桜島のお膝元を潜る!
ワイドで魅せる 錦江湾の魅力
2019 Winter [Kinkowan]